別紙1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和8年1月7日

協議会名： 江別市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
北海道中央バス株式会社	・野幌見晴台線① 野幌駅北口～5丁目通（錦町先回）～野幌駅北口（循環） ・野幌見晴台線② 野幌駅北口～4丁目通（錦町先回）～野幌駅北口（循環） ・野幌見晴台線③ 野幌駅北口～5丁目通（湯川公園先回）～野幌駅北口（循環） ・野幌見晴台線④ 野幌駅北口～4丁目通（湯川公園先回）～野幌駅北口（循環）	・新規転入者へのバスマップ及びバス乗り方ガイドの配布 ・広報誌を用いたバス利用促進のための特集記事の掲載 ・HPを用いた時刻表変更等をはじめとする路線関連情報の積極的発信 ・冬季のバス事業者と市土木事務所との除排雪等に係る情報共有 上記等の手段を用い、再編路線の周知を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	計画申請時の目標 ①利用者数：197千人 ②収支率：60.9％ ③市の補助金額：11,537千円 結果として①は173千人、②は73.7％、③は9,688千円であり、①は目標値を達成できなかった。 ①の要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響による需要回復の遅れや、減便により利用者数が減少したことによる。 その一方で、運賃改定による増収や、減便による費用減により、②収支率や③市の補助金額は改善している。	引き続き、バス路線の周知活動等を行い、新型コロナウイルスにより落ち込んだ需要の回復を図る。 冬季については、バス事業者及び市内の除排雪を担当する市土木事務所と連携して、情報共有の体制づくりを図るとともに、市民への情報周知（大雪時の運休情報等）を図る。 また、対象路線の利用状況を調査したうえで、当市において必要なバス路線を維持するため、PDCAサイクルを実施する。

別紙１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月7日

協議会名：	江別市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	江別市は北海道中南部、石狩平野のほぼ中央に位置しており、札幌市や岩見沢市など3市3町村に隣接している。面積は187.38㎢で、人口は117,748人（R7.12.1）である。市内のバス路線は、モータリゼーションの進展などにより利用者の減少が続いており多額の赤字を抱えながら運行している。赤字解消のため減便や路線の廃止による運行の効率化が行われてきたが、更なる利用者の減少に繋がるなど負の連鎖が続いてきた。 このため、市では平成27年度に交通機能の向上に向けた効果検証を行うため、新たな路線の実証実験を行った。その結果、実証運行路線の方が、利用者のニーズに合致しており、既存の市内完結2路線は利用者のニーズを満たしていない可能性があることが認められた。 そこで、平成30年6月に「江別市地域公共交通網形成計画」及び「江別市地域公共交通再編実施計画」を策定し、既存の市内完結2路線を実証運行路線を踏襲した「野幌見晴台線」へ統合し、地域間幹線系統と接続確保を行う地域内フィーダー系統として平成30年10月1日から新たに運行を開始したものである。